

ヨツモンカメノコハムシ *Laccoptera nepalensis* Boheman, 1855

【概要と選定理由】

幼虫、成虫ともにヒルガオ科のサツマイモ、ノアサガオ、アサガオ、マルバアサガオ、マルバルコウなどのサツマイモ属や、ヒルガオ、コヒルガオなどのヒルガオ属の葉を食害する(重藤ほか2020)。

【形態】

体長は7~9mmほど。成虫の体色は薄黄色~褐色で、上翅には2対の黒紋を有する。幼虫は令数分の脱皮殻を背負い背面を保護(擬態?)している。これは蛹も同様で、この殻を背負ったまま蛹化する。



(成虫)

【分布の概要】

【世界の分布】

中国、インド(アンダマン諸島を含む)、インドネシア(ジャワ島、スマトラ島、バリ島)、ラオス、マレーシア、ミャンマー、ネパール、パキスタン、シンガポール、台湾、タイ、ベトナムといったユーラシア大陸南部から東南アジアに分布(重藤ほか2020)。

【国内の分布】

東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、三重県、和歌山県、大阪府、山口県、愛媛県、高知県、九州全県、沖縄県。

【県内の分布】

名古屋市(伊藤ほか2020)、豊田市(伊藤ほか2020)、大府市、新城市(伊藤ほか2020)、豊橋市(山崎2018)。



(幼虫)

ヨツモンカメノコハムシ(戸田撮影)

【生息地の環境/生態的特性】

成虫・幼虫とも、おもに食草の表面にみられ、成虫は短距離をよく飛ぶ。また園芸品種のヒルガオ類のグリーンカーテンなどにもよく見られる。

【侵入の経緯/現在の生息状況】

県内への侵入の経緯は知られていない。南西諸島では在来もしくは古くからの移入であり、1990年代から奄美大島、そして長崎県など九州へ広がった。その後、本州からは2008年に静岡県で初めて記録されて以降、次々と見つかっている。

発生が始まると、葉に多数の食痕の穴があき、一気に増える。

【被害状況/駆除策と留意点】

本種の爆発的な発生により、寄生蜂が増加し、他の在来カメノコハムシ類への寄生が増えるなどといった影響が懸念される(清水2012)。本種の防除には登録農薬がある。

【引用文献】

- 伊藤健太郎・岩下幸平・戸田尚希. 2020. 愛知県内に分布を拡大するヨツモンカメノコハムシ. 佳香蝶 Vol.72 (281): 42.
重藤裕彬・末長晴輝・南雅之・渡部晃平. 2020. ヨツモンカメノコハムシの分布記録および日本国内、特に琉球列島における分布の現状. ホシザキグリーン財団研究報告 第22号: 227-243.
清水稔. 2012. ユアサアシトコバチの新宿主ヨツモンカメノコハムシ. 熊本博物館報 (24): 128-129.
山崎隆弘. 2018. 愛知県豊橋市でヨツモンカメノコハムシを確認. 三河生物・西三河野生生物研究会会報 Vol.10: 77-79.

(戸田尚希)